

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島市立戸坂小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒732-0016

広島県広島市東区戸坂出江2丁目1-1

E-mail hesaka@e.city.hiroshima.jp

Website <http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0906>

幼児児童生徒数 男子379名 女子351名 合計730名

幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

本校は、「確かな学力と豊かな心を育み、未来を健康でたくましく生きぬく児童の育成」を学校理念としている。

本校の目指す「未来を健康でたくましく生きぬく児童の育成」は、「持続可能な社会の担い手を育成する」というESDの理念と一致していると考え。そこで、本校では、ESDの理念を全教育活動において中心的な視点となるものと捉え、教育活動全体をESDの視点から捉え直し、それぞれの活動のつながりを意識して実践することによって、めざす子ども像の実現に取り組んできた。

平成29年度は、ESDの実践を通して批判的に考える力(批判)、コミュニケーションを行う力(伝達)、つながりを尊重する態度(関連)の育成に重点を置き実践を行ってきた。

具体的には、国語科の授業実践(①)と昨年度姉妹校の提携をしたオーストラリア クイーンズランド州立ピンパマ小学校(Pimpama State School)との交流(②)を行った。

① 国語科の授業研究

平成 29 年度は、研究テーマを「批判」「伝達」に視点を当て、言語活動の充実を図る国語科授業づくりとして、国語科(説明文)の授業を通して、E S D の視点である「批判」「伝達」の力の育成を図った。

説明文の読み取りをしていく中で、個々が自分の考えを持ち、「論理的・合理的・多面的」に考え、意見を交流していく授業を目指し、各学年授業研究を行った。

② ピンパマ小学校との交流

本校では、「多様性」や「相互性」の理解を深めるため、国際理解教育に重点的に取り組み、つながりを尊重する態度(関連)を養ってきた。

総合的な学習の時間に国際理解教育に関わる学習活動を位置づけ、広い視野をもった子どもの育成に取り組んでいる。

平成 28 年度、ピンパマ小学校と姉妹校提携を締結し、平成 29 年度は、全学年間で交流を行い、互いの国の良さや違いを認め合う心の育成に努めてきた。互いの多様な文化を知り、理解することで『共生の理念』を培い、持続可能な社会の担い手を育てていきたいと考えている。

具体的には作品交流を行ったり、互いの学校の紹介などの映像交流を行ったり、ピンパマ小学校のあるオーストラリアについて調べ学習をし、調べて分かったことや疑問に思ったことを手紙に書いて送ったりした。

各学年の交流によって、日本とオーストラリア、お互いの国の生活や文化について理解を深め、共通点や相違点について考えることができた。そして、それぞれの違いを尊重しようとする態度を育むことができたと思われる。

作品交流



映像交流の様子



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし (調べ学習の際などにはインターネット使用多数)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

国語科においては、学習指導要領と関連付け、ESDを核とした課題解決型の学習過程を重視した授業スタイルの確立を行っている。

また、全教育活動を横断的に捉えるため各学年においてESDカレンダーを作成し、教育活動を展開している。

総合的な学習の時間においては、平成29年度から全学年の年間指導計画の中に国際理解教育（ピンパマ小学校との交流）を明確に位置付け、1年ごとに活動を精査している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

全教育活動において、ESDの視点を中心に据える意識を全教職員が共有できるように、教育活動がESDのどの視点に基づいて行われるか提案資料に具体的に記載している。

（例）運動会…「進んで参加する態度」、「他者と協力する力」

委員会…「つながりを尊重する態度」 など

これらを目的の欄に具体的に明記している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

（内部）年度末にESDに関わる取組（国語科、国際理科教育）のアンケートを実施した。

（外部）PTA総会や学校協力者会議、ホームページ等においてESDの理念や取組を地域にも発信し、特に学校協力者会議において地域の意見を聞く機会を設けている。

（成果）

・ユネスコスクールとしての認識が地域にも広まってきている。

（課題）

・国際理解教育の活動がまだ交流するに留まっており、子どもに十分に「つながりを尊重する態度」を養えたとは言い難い。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

ホームページ等における活動の取組の発信を行ってきた。特に本校では海外の学校との交流など国際理解教育に主眼をおいているので、ホームページには、英語ページを設け、日本だけでなく、他の国からも内容が読み取れるよう務めている。

学校協力者会議において、ホームページを見た地域の方からコメントを頂くなど、地域にもユネスコスクールとしての認識が広まっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

比治山大学と学校間協力を行っており、大学生数名が毎年インターンシップで訪れたり、授業研究の際には大学教授を講師として招聘したりするなど、ESDの考えに基づいた授業研究をともに行っている。

また、国際交流に関する情報提供などネットワークの活用を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

平成28年度より、オーストラリア クイーンズランド州 ピンパマ小学校との交流を行っている。

平成28年度は学校長と主幹教諭が実際に現地へ赴き、姉妹校提携の締結を行い、主には高学年児童の交流を行った。

平成29年度も学校長、その他教員数名が現地へ赴き、授業見学やピンパマ小学校の教員との交流を行った。また、全学年での交流を開始した。

平成30年度はピンパマ小学校より数名の教員が本校に訪れる予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

児童・生徒はユネスコスクールとしての交流によって、「同じところもあったけれど、違うところが多かった。」「オーストラリアの6年生が日本語で話しかけてくれることが嬉しかった。海外の友だちができたようで嬉しい。」などの普段の教育活動では味わえない感想を持ち、互いの文化について理解を深めることができた。

ESDの理念は全教育活動に通ずるものなので、教育活動を横断的に捉えるという視点が教職員に意識化されていると感じる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度の授業研究におけるテーマも引き続き「批判」「伝達」の力の育成に主眼を置くこととなっており、課題解決型の授業について研修を重ねる。

また、ESDカレンダーと総合的な学習の時間の国際理解教育の取組の見直しを4月当初に行う。国際理解教育においては、ピンパマ小学校や比治山大学といったネットワークを十分に活用し、今年度は新たな取組を模索していきたい。

平成30年度はピンパマ小学校より、教員数名が本校を訪問し、授業観察の他に教員同士の交流会も予定している。

そこ得た新たな知見をもとにESDの取組をさらに深化させていく。